

びょういん あーと ぷろじえくと 展



ARTISTS

安藤文絵
上嶋秀俊
小川豊
小林麻美
佐藤綾香
佐藤隆之
瀬川葉子
野村裕之
日野間尋子
藤山由香
八子直子
山田恭代美

アートとケア、アートと医療、それぞれの接点を探る取り組みとして、2008年札幌にて「びょういんあーとぷろじえくと」をはじめました。

医療・福祉の現場での活動であることから、これまで一般の方には、なかなか見ていただく機会がありませんでした。この度、多くの皆様が行き交う公共空間での実施となります。この展示を通して、アートの可能性や見えない力の存在を共有いただければ幸いです。

日時

2023年(令和5年)

3月24_金 25_土 26_日

10:00-19:00 (最終日26日は
18:00まで)

会場

札幌文化芸術交流センター

SCARTS
スタジオ1・2

表紙の絵「おうち」：あけみ(北の峯学園)
紙面デザイン：井上 始子

シンポジウム

病院にアートがある
ということ

3/26_日

15:00-17:00

参加費：無料

定員：予約優先50名

お申し込みはこちらです →



パソコンでお申込みの方は下記URLからどうぞ。
<https://www.hinoma.com/hospitalart/event/>

会期 2023年(令和5年)3月24日(金)、25日(土)、26日(日) 10:00~19:00
会場 060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目札幌市民交流プラザ2階
札幌文化芸術交流センター SCARTSスタジオ1・2
後援 北海道文化財団、道銀文化財団、札幌市、札幌市教育委員会
企画主催 びょういんあーとぷろじえくと
<https://www.hinoma.com/hospitalart/>

事務局 / お問い合わせ先

びょういんあーとぷろじえくと代表
日野間 尋子

hpj2023@hinoma.com



札幌文化芸術交流センター-SCARTS
文化芸術振興助成金交付事業
(公益財団法人 札幌市芸術文化財団)

ARTISTS

展示企画 札幌文化芸術交流センター SCARTSスタジオ1・2

3/24(金) 25(土) 26(日)

スタジオを医療空間と見立て、12人の作家それぞれが、何処に作品を展示するかを想像しながら制作しました。作家名/作品の題名/場所



小林麻美「朝、遠くまで見えた」産婦人科



佐藤綾香「ファーストシューズ」産婦人科



佐藤隆之「猫」待合室



山田恭代美「こもれび」手術待合室

Art is a means for survival.

真っ白な紙にただ1行、そう書かれたオノヨーコさんの2001年のインスタレーション。超高層ビルにジャンボ機が突っ込み、アメリカ中が「報復」を叫んでいたさなか、タイムズ・スクエアに「War is Over! if you want it」という大きな看板を掲げるとは、アメリカすべてを敵に回し、殺されるかもという覚悟のうえでの行為でした。その時つくられたのがこの作品です。

いのちをおびやかすのは病気だけではありません。ありのままに生きようとするとき、みんなが平穏に生きるのを願うとき、感じたままを、じぶんのコトバで伝えようとするとき、それを奪おうとする力が世界にはあふれています。でも、どんなときも、たとえつぼうするときでも、一瞬、いっしゅん、じぶんの息をひきついていくこと、それが自身にも、相手にも、生きのびる力を与えるのです。

ホスピタルアートという言葉が北海道でも聞かれるようになる前から、そのような試みを続け、病院にいる人たちを励ましてきたひとたちの15年間の歩み、夢を、この展示で感じてください。

「行動する市民科学者の会」事務局長 小野有五



藤山由香「untitled」入院病棟デイルーム



安藤文絵「a life」霊安室

シンポジウム

テーマ 病院にアートがあるということ

3/26(日) 15:00-17:00
札幌文化芸術交流センターSCARTSスタジオ

参加費
無料

予約優先
50名

お申込みは
こちらです→



八子直子「風景の庭」エントランスロビー



日野間尋子「ひかり」緩和ケア科

病院にアートがあるということ

志田 勇人 医療法人北志会 札幌ライラック病院 理事長

2008年秋から当院で取り組んでいる「びょういんあーとぶろじゅくと」は、病院にアートがあることで病院にかかわる多くの方に安らぎや心のゆとりを持って過ごしていただきたいという願いから美術家の日野間尋子さんとのご縁をきっかけに始まりました。この企画を通じて思ったこと、感じたことをお伝えできればと思います。

パソコンでお申込みの方は右のURLからお申し込みください。 <https://www.hinoma.com/hospitalart/event/>

生命体としての病院。ホリスティックなアートの力

森 合音 NPOアーツプロジェクト代表 国立病院機構 四国こどもととなの医療センター アートディレクター

院内に存在するすべてのアートは、患者様の快復と幸せを祈る医療スタッフの「想い」の結晶です。目に見えない「想い」をどのようにかたちにしてゆか。[現場]の声に耳を澄まし、医療スタッフ、作家、さまざまな分野の専門家と話し合い、アートを媒体にして院内により豊かな医療空間を創出してゆくことを目的としています。



野村裕之「今日の雲を見たかい」院内廊下



瀬川葉子「水から生まれる」内科デイルーム



上嶋秀俊「光の中へ」院内廊下



小川豊「心のひだ」待合室